

「こおりやまの米」通信

編集:郡山市
 JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)
 NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)
 県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)
 発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)



Vol. 3 田植え～本田初期管理

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

1 田植え ～風のない暖かい日に実施し、植え付け本数は1株当り3～4本程度にしましょう！～

(1) 田植え前に再確認！

○育苗時の温度管理徹底！

健苗移植に努めましょう。

病害防除が必要な場合⇒農薬の使用回数、成分ごとの使用回数にも注意する。

○移植は天気の良い日に！

低温時や強風時の移植は植え傷みの原因になります。

○植え付け本数は1株当り3～4本！

植え付け本数が多いと⇒①肥料切れが早くなる。

②茎が細くなる。

③酸素不足で根も細くなる。

○苗が転ばない程度の浅植！

深植えすると⇒下位分けつが発生しにくく、生育が遅れる。

(2) 箱剤を使用するときは・・・

○薬害を防ぐため、葉が乾いてから散布！

・葉の表面に残った薬剤はやさしく払い落としましょう。

・軽いかん水で培土になじませましょう。

(3) 補植について

○欠株が連続する場所だけで十分！

・欠株の隣の株が旺盛に生育するため、生育量は補償されます。

○除草剤散布前に終わらせる！

・除草剤の処理層を壊してしまいます。

・補植された苗も薬害を受けやすくなります。

○補植苗の放置はいもち病の発生源！すぐに撤去しましょう！

2 本田初期の水管理 ～深水ののちに浅水管理～

○田植え後は速やかに深水管理

活着までの3～5日間は苗が水没しない程度の深水管理。

・過度な蒸散や風から稲体を保護

・除草剤の効きムラ防止

○活着後は速やかに浅水管理

・湛水は3cm程度とし、分けつを促進。

・除草剤使用直後の落水は行わないように注意！

※新しい根が3～4cmになった日が活着期です。

○弁当肥の施用

葉色が極端に淡い場合のみ

⇒田植え2日前頃に1箱当りチツ成分1g程度を追肥



3 雑草防除 ～除草剤は遅れずに散布しましょう～

(1) 初中期一発剤使用上の注意

○水口・水尻はしっかり止水

・絶対に除草剤の流失はさせない！

・事前に畦畔の漏水を防止しておく！

○散布時は十分な水深(5cm以上)に！

・土の表面に均一な処理層が形成されます。

・雑草が茎葉からも農薬成分を吸収するため、十分な除草効果が発揮されます。

(2) 万が一雑草が残ったら・・・

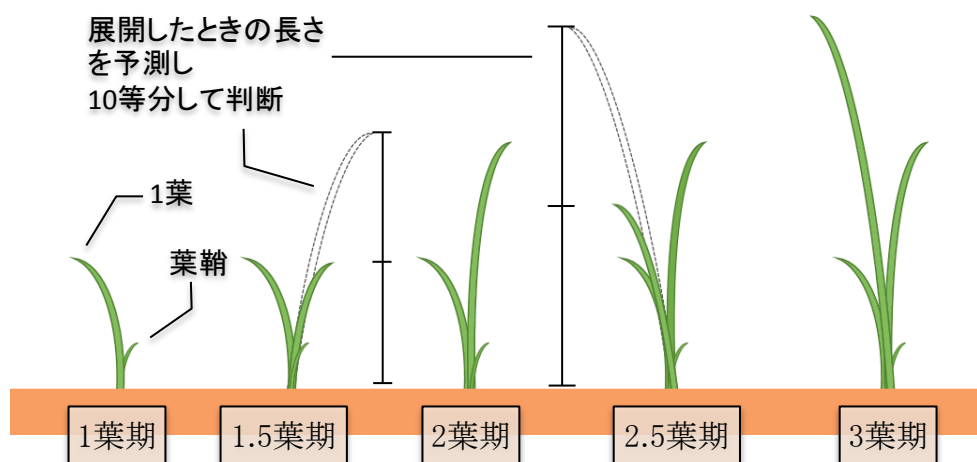
	ヒエ	ヒエと広葉雑草		広葉雑草
商品名	ヒエクリーン 1キロ粒剤	フォローアップ 1キロ粒剤	ワイドパワー 粒剤	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)
使用時期	移植後15日～ ノビエ4葉期 (但し、収穫45日 前まで)	移植後15日～ ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降) (但し、収穫60日 前まで)	移植後20日～ ノビエ5葉期 (但し、収穫60 日前まで)	移植後15～55日 (但し、収穫60日前 まで)
使用量	1kg/10a	1kg/10a	3kg/10a	3～4kg/10a
使用方法	湛水散布		落水散布又は ごく浅く湛水して散布	
注意				処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがある

【除草剤に記載のある雑草葉齢】

×ほ場内の雑草の平均 ではありません！

○ほ場内で最も生育が進んだ雑草の葉齢 が正解です！

【ノビエの葉齢の数え方】



4 いもち病防除にはQoI剤を含まない農薬を使用しましょう

- 平成28年度にQoI剤を含む育苗箱施用剤を使用した場合
⇒右表の薬剤は使用しない。
- 在庫のQoI剤を含む薬剤を使用する場合
⇒箱施用剤と本田散布剤に、連続してQoI剤を含む薬剤を使用しない。

【QoI剤耐性いもち病菌について】

QoI剤は、平成11年からいもち病防除の本田散布剤として「アミスター」「オリブライト」が使用されてきましたが、平成19年に育苗箱施用剤として「嵐」が開発され、紋枯病の同時防除も可能なため全国的に流通量が増加しました。しかし、平成24年より日本の各地でQoI剤耐性菌の発生が確認されてきました。

そして昨年、福島県においてもQoI剤耐性菌の発生が確認されました。

5 ばか苗の蔓延防止は早いうちに！

種子消毒以外でばか苗病に登録のある農薬はありません。

○移植前によく確認！

発病した株はほ場に持ち込まない。

○移植後もよく観察！

- ・苗床では発病せずに、移植後に病徴が現れる場合がある。
- ・罹病株は根を含め株ごと抜取る。

○抜き取り後、ほ場外で埋設処分！

○ばか苗病の孢子は広範囲に飛散！

- ・多発するほ場は、近隣水田への感染源となる。
- ・後々の問題のタネとなりかねない。

水稲の放射性物質吸収抑制のため、配布の塩化カリは必ず基肥(20kg/10a)で散布してください。



県内で流通しているQoI剤を含むいもち病防除薬剤(27農薬年度)

種類	商品名	
箱施用剤	・嵐プリンス箱粒剤6	・嵐ダントツ箱粒剤
	・嵐プリンス箱粒剤10	・嵐スタークル箱粒剤
本田散布剤	・アミスターエイト	・イモチミン粒剤
	・アミスタートレボンSE	・イモチエースキラップ粒剤
	・オリブライト1キロ粒剤	・イモチエーススタークル粒剤
	・イモチエース粒剤	・オリブライト250G
	・イモチエース1キロ粒剤10	・オリブライト粒剤

おいしいお米とは？ No.3

稲作における重要な栽培技術の一つに「分施」があります。稲の生育ステージに応じて肥料を散布する、いわゆる追肥のことです。近年はこれを応用する技術として、様々な肥効パターンの資材を含む一発施肥が活用されています。

この分施肥技術を大きく分けると、移植時に施用する「基肥」、出穂約20日前(品種により異なる)に施用する「穂肥」、出穂時に施用する「実肥」があり、これらが組み合わせられ施肥体系が作られています。

「基肥」は茎数の確保、「穂肥」は粒数の確保、「実肥」は登熟の確保の効果がありますが、このうち食味に大きな影響を及ぼすのは「穂肥」と「実肥」です。

「穂肥」は幼穂長を確認して施用する必要があります。時期が早いと草丈が伸びてしまい、遅いと食味が低下します。また、「実肥」は明らかに玄米中のタンパク質を増やします。

ただし、いずれも適切な時期に適切な量を施用することができれば、品質と収量の向上を図ることができますし、実践している「名人」もいます。「名人」に共通していることは、稲の生育とほ場の状態をよく観察していること。皆さんもこまめに稲の状態を観察してみましょう！！

春の農作業安全確認運動展開中！

～ノーミス ノー事故 農作業～

- 農機で公道を走行する際は「低速車マーク」や「反射板」を取り付けましょう。また、運転前に反射板に泥汚れなどがないかチェックを忘れずに。
- 救命効果の高い安全キャブ・フレームを装備したトラクターを利用しましょう。また、運転中はシートベルトを着用しましょう。
- 道路走行時には必ずブレーキ連結を確認しましょう。ペダル操作を誤らないよう、長靴の泥を良く落として運転してください。

低速車マーク

夜間後方150mから確認できる識別性を備えており、昼間でも認識されやすいよう配色・素材に工夫がされています。

後続車の視認性を高めるため、低速車マークを活用しましょう。



経営所得安定対策の加入申請は

6月20日までです！

～忘れずに申請書類等を提出してください～

期日までに申請がない場合や、申請内容に記入の誤りや漏れ、不足書類等があった場合には、国から農家の方へ、交付金の支払いができなくなります。

十分にご注意ください。

【お問い合わせ先】

最寄のJA、米集荷業者(生産調整方針作成者)、郡山市農業政策課(Tel.924-2201)

